

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第4169355号
(P4169355)

(45) 発行日 平成20年10月22日(2008.10.22)

(24) 登録日 平成20年8月15日(2008.8.15)

(51) Int.Cl. F 1
G 0 9 F 5 / 0 4 (2006.01) G 0 9 F 5 / 0 4 Z

請求項の数 2 (全 8 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2005-136808 (P2005-136808) (22) 出願日 平成17年5月10日 (2005.5.10) (65) 公開番号 特開2006-317475 (P2006-317475A) (43) 公開日 平成18年11月24日 (2006.11.24) 審査請求日 平成17年6月2日 (2005.6.2)</p>	<p>(73) 特許権者 500016774 佐伯 有造 東京都杉並区今川1-17-15 (74) 代理人 100141221 弁理士 山田 和明 (74) 代理人 100091764 弁理士 窪谷 剛至 (72) 発明者 佐伯 有造 東京都杉並区今川1-17-15 審査官 櫻井 茂樹</p>
--	--

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 配色色相比較ボード

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

赤、黄、緑、青などの有彩色群を周方向に順次配設すると共に、各色群を内周より外周に向けて、明度も彩度も低い色群、明度も彩度も高い色群、明度が低く彩度が高い色群、明度が高く彩度が低い色群として順に設け、外周の明度が高く彩度が低い色群をサマー、次の周の明度が低く彩度が高い色群をウインター、次の周の明度も彩度も高い色群をスプリング、内周の明度も彩度も低い色群をオータムとし、前記赤色群に対して180度位相を異にする色群を青緑色群としてなる円盤状の色相プレートと、
 該色相プレートに重ね、前記色群の一色又は近似する複数の色群及び180度位相を異にする色群を透視する透視窓を有し、
 前記色相プレートの中心に枢着した回転プレートとを有する配色色相比較ボード。

10

【請求項2】

前記色相プレートの外側又は回転プレートの中心部に、複数の黒色群及び白色群を周方向に表示した無彩色プレートを回転自在に枢着してなる請求項1記載の配色色相比較ボード。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

20

【 0 0 0 1 】

本発明は、背景色などを引き立たせる色を容易に選択できる配色色相比較ボード、詳しくは洋服、室内等のトータルコーディネートが容易に選択できる配色色相比較ボードに関する。

【 背景技術 】

【 0 0 0 2 】

今日、あらゆる色が氾濫しており、配色についての関心が高く、どの背景の背景色には、どのような色の組み合わせが最適であるか興味を持っている。

背景色が人の肌色の場合、どの色の家具、カーテンが組み合わせとして最適であるか、その判断は難しかった。

10

【 0 0 0 3 】

例えば、その人を引き立たせる色はその人の肌色でにより決まり、その際、その人の肌色を説明するには、肌色ごとにその肌色を引き立たせる色をグループ化し、その色を環状に並べて説明していた。

【 0 0 0 4 】

このような説明では、グループ化した色が環状に並べてあるだけなので、肌色ごとの比較が解りづらい。

例えば、黄色系でも、薄い黄色、明るい黄色、濃い黄色等があり、肌色によっては、その人を引き立たせる黄色系の色が異なる。

そのような場合に、グループ化した色が環状に並べてあるだけでは、肌色ごとの黄色系の区分がわかりずらく見づらい。

20

【 0 0 0 5 】

更に、具体的には、着色した髪の毛、布地、宝石等は、どの色がもっとも自分を引き立たせるか比較する際、その都度、着色した髪の毛、布地、宝石等のカラー見本を作成するには面倒で、コストもかかる。

【 0 0 0 6 】

また、各分野での流行色は季節ごとにより変わり、その都度、色相比較ボードを作成することも面倒である。

このように、人の肌色を引き立たせる色を説明する場合であっても、その説明が難しく、どの背景色にはどの色が最適かの判断は容易ではなかった。

30

【 0 0 0 7 】

かかる不具合を解消すべく、本出願人は特開 2 0 0 3 - 5 8 0 6 3 号（特許文献 1）において斬新な提案をした。

【 0 0 0 8 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 3 - 5 8 0 6 3 号公報

【 発明の開示 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 9 】

以上の提案品によれば、どの背景色ではどの色系のどの色が良いかが解るので、見やすく解り易く、色相カラーと比較可能なカラー見本を取り外し可能に取りつけているので、各分野での流行色が実物を介して容易に認識できる。

40

【 0 0 1 0 】

しかし、この提案品に依れば、左右、上下を見るため、最も似合う配色、例えば、3色から5色を同時に簡単に見つける事ができない。

【 0 0 1 1 】

そこで、本発明は斬新な本出願人の提案品の不具合を除去する事を目的としている。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 2 】

以上の目的を達成するための本発明にかかる配色色相比較ボードは、赤、黄、緑、青などの有彩色群を周方向に順次配設すると共に、各色群を内周より外周に向けて、明度も彩

50

度も低い色群、明度も彩度も高い色群、明度が低く彩度が高い色群、明度が高く彩度が低い色群として順に設け、外周の明度が高く彩度が低い色群をサマー、次の周の明度が低く彩度が高い色群をウインター、次の周の明度も彩度も高い色群をスプリング、内周の明度も彩度も低い色群をオータムとし、前記赤色群に対して180度位相を異にする色群を青緑色群としてなる円盤状の色相プレートと、該色相プレートに重ね、前記色群の一色又は近似する複数の色群及び180度位相を異にする色群を透視する透視窓を有し、前記色相プレートの中心に枢着した回転プレートとを有する構成である。

【0013】

そして、前記色相プレートの外側又は回転プレートの中心部に、複数の黒色群及び白色群を周方向に表示した無彩色プレートを回転自在に枢着してなることが好ましい。

10

【発明の効果】

【0014】

本発明によれば、例えば、洋服を組み合わせる際、ソフト、エレガント、上品なイメージを有する色であるダークブラウンを色相プレートから選択する。

そして、回転プレートの透視窓を色相プレートのダークブラウンに透視できるように回転させると、色相プレートのダークブラウンが回転プレートの透視窓に現われる。

回転プレートの透視窓に現われダークブラウンに合う色が、回転プレートの左右又は180度位相を異にする透視窓から視覚されるので、洋服を組み合わせる際に、最も合う3色乃至5色の配色から簡単に見つけることが可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

20

【0015】

以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。

図1は本発明にかかる配色色相比較ボードを示し、図中、1は円盤状の色相プレート、2はこの色相プレート1に重ね回転自在に中心を枢着した回転プレート、3は回転プレート2の中心部に回転自在に枢着した無彩色プレートを夫々示している。

【0016】

前記色相プレート1は、図2に示す様に、中心より外周縁方向に放射状に複数の赤色群、黄色群、緑群、青色群などの有彩色群が表示してある。

この有彩色群は、内周より外周方向に、周方向に沿って、明度も彩度も低い色群、明度も彩度も高い色群、明度が低く彩度が高い色群、明度が高く彩度が低い色群として順に配色されている。

30

【0017】

例えば、赤色群の180度位相を異にする位置には青緑群が位置する様に対照配色されている。

【0018】

そして、外周の明度が高く彩度が低い色群をサマーSとする。このサマーSはソフト、エレガント、上品なイメージを有し、例えば、人体では、目がダークブラウン、肌がピンクベージュ、髪がダークブラウンが経験観察すれば似合う色相である。

【0019】

次の周の明度が低く彩度が高い色群をウインターWとする。このウインターWはシャープでモダン、個性的なイメージを有し、人の場合には、目がブラック、肌がローズピンク、髪がブラックが経験観察すれば似合う色相である。

40

【0020】

次の周の明度も彩度も高い色群をスプリングSPとする。このスプリングSPはロマンチック、チャーミングなイメージを有し、目がライトブラウン、肌がピーチベージュ、髪がミディアムブラウンが経験観察すれば似合う色相である。

【0021】

そして、内周の明度も彩度も低い色群をオータムAとする。このオータムAは、シック、ナチュラルなイメージを有し、目がチェスナットブラウン、肌がダークブラウン、髪がチェスナットブラウンが経験観察すれば似合う色相である。

50

【 0 0 2 2 】

上記では、外周の明度が高く彩度が低い色群をサマーS、次の周の明度が低く彩度が高い色群をウインターW、次の周の明度も彩度も高い色群をスプリングSP、内周の明度も彩度も低い色群をオータムAとして春夏秋冬で区分しているが、その名前はこれに限られるず、変える事ができる。

【 0 0 2 3 】

一方、回転プレート2は、図3に示す様に、前記色彩群のうちの1色彩、例えば、赤色群のみ、又は近似する色彩群、例えば、赤色群とそれに隣接する赤紫色群、赤みの橙色群、及びその反対側である180度位相を異にする色彩群、例えば、赤色群の場合には青緑色群、青赤紫色群に対して緑色群、赤みの橙色群に対して緑みの青色群がそれぞれ外部に露出するように、6本の放射状の透視窓20、21、22、23、24、25が開孔されている不透明プレートである。

10

【 0 0 2 4 】

また、図示する無彩色プレート4は、回転プレート2の中央部に回転自在に枢着され、サマーS、ウインターW、スプリングSP、オータムAに対応する4種類の黒色、白色を周方向に表示してある。

白色としては、例えば、アイボリーホワイト、オフホワイト、スノーホワイト、オイスターホワイトで、黒色としては、例えば、墨黒、濃い黒、ダーク黒、ソフト黒である。

20

即ち、白色、黒色であっても、同じ色彩ではない黒白があるので、それが表示してある。

なお、0は回転中心を示す。

【 0 0 2 5 】

次に、本発明に係る配色色相比較ボードの使用方法につき説明する。

【 0 0 2 6 】

例えば洋服の配色をする場合、ソフト、エレガント、上品なイメージを有するサマーSを所望し、ある色として手持ちの上着を選択する。

その上着の色がピンクページユの場合には、回転プレート2の中央部の透視窓20が色相プレート1の外周に位置するサマーSであるピンクページユに位置すべく回転させると、ピンクページユが透視窓20から視覚できる。

30

【 0 0 2 7 】

次に、図5に示す様に、ピンクページユが視覚される透視窓20に隣接する透視窓21、22には、ピンクページユと類似した色相が視覚されるため、この類似する色相を選択することにより、他の例えば、パンツ、ワイシャツ、ネクタイの色を決めると、親しみのある豊かな調和感が得られ、ビジネス、フォーマル用の洋服として最適な色相が容易に選択できる。

【 0 0 2 8 】

また、図6に示す様に、回転プレート2の透視窓20に対して反対方向の透視窓24、25より視覚される色相は、アピール、カジュアルは配色となる。

40

従って、この対照配色を選択すると、派手な、活発な、変化に富んだ配色感が得られるため、カジュアルな洋服、スポーツウエアとして最適な配色となる。

このようにして、洋服のコーディネートを行なう。

【 0 0 2 9 】

無彩色プレート4は、前記の場合には、回転プレート2の透視窓20に合わせるべく回転させ、サマーSの黒色S'1、白色S1を透視窓20の位置に回転させると、ソフト、エレガント、上品なイメージを有するサマーSの黒色、白色が容易にわかる。

【 0 0 3 0 】

前記では、回転プレート2の透視窓20として開孔としているが、この透視窓20を開閉可能とする事もできる。

50

また、色相プレート1はサマーS、ウィンターW、スプリングSP、オータムAの4区分としているが、明度、彩度を細かく分けて5区分、6区分にする事もできる。

【0031】

上記では洋服のコーディネートの場合で説明したが、室内のインテリアのコーディネートも同様な方法で、カーテン、家具、カーペットなどのコーディネートも行なう事ができる。

【0032】

又、回転プレート2の透視窓20は、サマーSの色群が視覚できるように、サマーSの周方向に開孔しても良く、かかる場合には、サマーSの選択した色に対して、自然な変化を求めたい場合には、その選択した色以外を選択すれば、自然な変化の色彩となる。

10

【産業上の利用可能性】

【0033】

本発明は洋服、インテリアの他に、自動車の内装、外装、化粧品、ヘアカラー、ネイル、ディスプレイ、パッケージ、街並みの配色、コーポレートカラーなどの配色にも利用する事ができる。

【図面の簡単な説明】

【0034】

【図1】本発明品の部分切欠図である。

【図2】本発明品を構成する色相プレートの平面図である。

【図3】本発明品を構成する回転プレートの平面図である。

20

【図4】本発明品を構成する無彩色プレートの平面図である。

【図5】本発明品の使用方法を説明する説明図である。

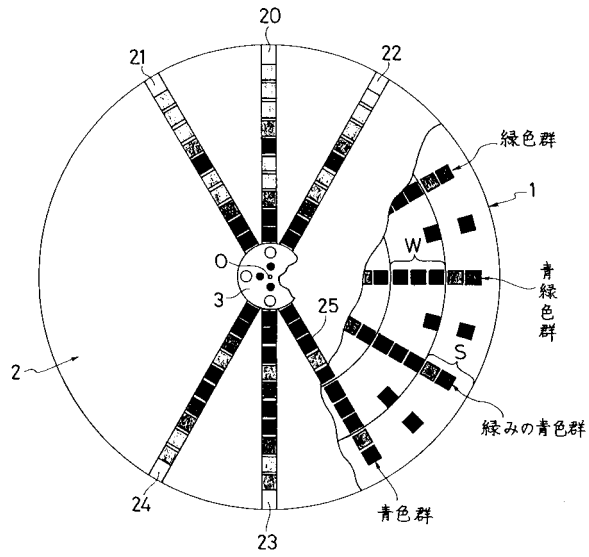
【図6】本発明品の別の使用方法を説明する説明図である。

【符号の説明】

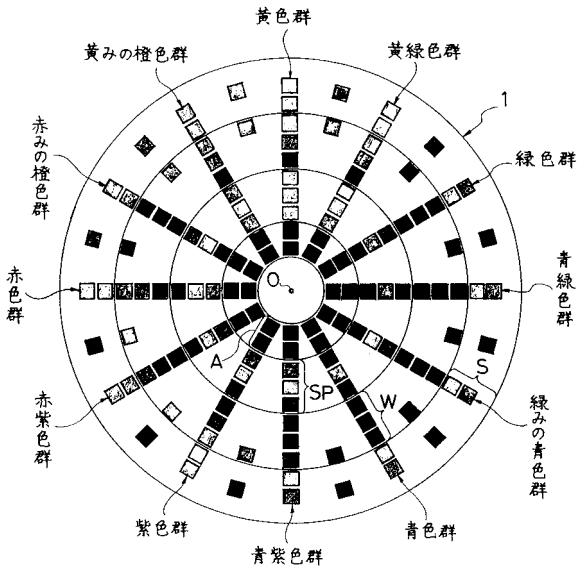
【0035】

- 1 色相プレート
- 2 回転プレート
- 3 無彩色プレート
- 20, 21, 22, 23, 24, 25 回転プレートの透視窓

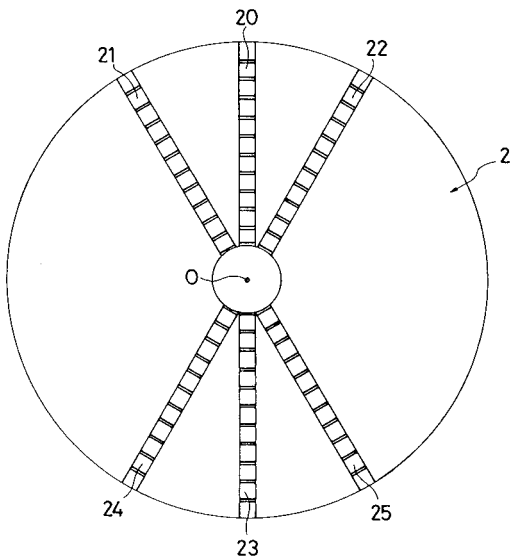
【図1】



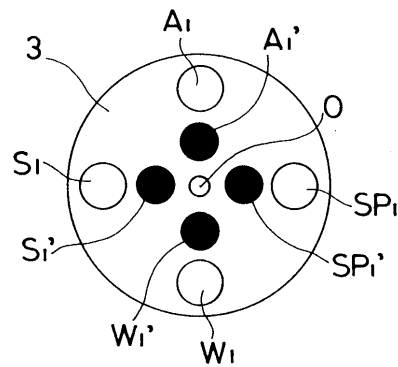
【図2】



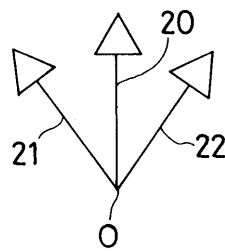
【図3】



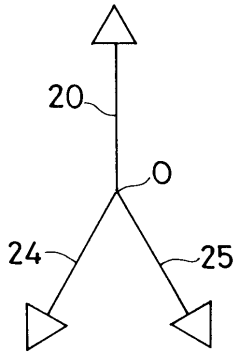
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平08 - 228837 (JP, A)
特開平11 - 309016 (JP, A)
特開2003 - 058063 (JP, A)
実開平01 - 149429 (JP, U)
登録実用新案第3069967 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G09F 5/04
G01J 3/52
A45D44/00
G06C 3/00